

駅前に広がる弥生集落



遺構が密集する JR小松駅東口前調査区（C1区）

ようかいちじかた
八日市地方遺跡は、推定面積 15 万㎡を超える北陸地域を代表する弥生時代中期の大規模な環濠集落です。小松市日の出町を中心とする JR小松駅東側一帯に広がり、平成 28 年度のかんごうしゅうらく
「日本遺産」に認定された小松石文化のルーツとなる遺跡としても知られています。

平成 27 年度から始まった北陸新幹線建設に係る発掘調査は、遺跡の西部を南北に縦断する調査となりました。

発掘調査では、土坑や小穴、溝などの遺構が、足の踏み場のないくらいに密集する状況を確認しました。これらの遺構はそのほとんどが他の遺構と切り合っており、その大半から多くの遺物が出土しました。こうしたことから、この場所では比較的長期にわたり生活が営まれていたことが推測されます。

なお、JR小松駅東口前の調査区では、工事用仮囲いに透明なアクリル板がはめ込まれ、駅利用客のみなさんが調査の様子を興味深くのぞき込んでいる様子がみられました。



H28 発掘調査

よう か いち じ か た い せ き
八日市地方遺跡（Ⅱ区） [小松市]

J R小松駅東口前の調査区（C1区）では、足の踏み場もないくらいに密集した遺構から、弥生時代中期の土器をはじめ、たくさんの遺物が出土しました。中には、^{くだたま}管玉や^{まがたま}勾玉などの成品や未成品、その素材となる^{へまぎよく}碧玉やヒスイの原石、玉作りに使用された石針や石鋸などの道具類も多く含まれ、この集落で盛んに玉が生産されていたことがわかります。



弥生土器の出土状況



^{へまぎよくせつかく}碧玉石核と^{はくへん}剥片の出土状況

また、南側の調査区（C3区）では、集落を東西に貫流する川跡が確認されました。川べりからも多くの管玉や玉作り関連遺物が出土したほか、農具など大量の木製遺物の成品や未成品、^{あらわ}粗割りされた木材も出土し、木製品の生産も行われていたことがわかります。



木製遺物の出土状況

膨大な数の遺構や大量の出土遺物に調査は手間取り、冬場も休むことなく調査を続けました。また、全国的にも著名な遺跡の調査でもあり、調査中にはいくつかのテレビ取材もありました。



雪の中での調査風景



テレビの取材

H28 発掘調査

かじ い えいせい
梶井衛生センター遺跡 [か が し
加賀市]

加賀市梶井町の現集落北東に展開する遺跡です。北陸新幹線建設に先立ち、動橋川右岸の水田部分東西約 200 m の区間を調査しました。

調査の結果、弥生時代から中世までの集落遺跡であることがわかりました。弥生時代中期では周溝をもつ平地建物や溝、土坑、弥生時代後期では河川跡、溝を確認しました。平地建物からは柱根がみついています。溝や土坑からは弥生土器が出土し、河川跡の底からは、弥生時代後期の木製品の鋤や網杵が出土しました。また、古代では掘立柱建物や溝、井戸を確認しました。集落の全容は不明ですが、平安時代中頃とみられる 2×2 間の総柱建物 4 棟が比較的近接してみつかった箇所もありました。

井戸には矢板を打ち込んで井戸側としたものと舟材を切断して使用したものとがありました。後者は深さが約 1.7 m あり、上方の腐朽具合などから、舟は元々全長 4 m 以上あったとみられます。両者とも井戸側内の底には小砂利が敷かれていました。

主な遺物には、弥生土器、古墳時代～古代の須恵器や土師器があります。また、弥生時代の管玉未成品、古代の砥石・炉壁・鉄滓、中世の石鉢のほか各時代の木製品なども出土しました。

弥生時代後期の河川跡は、当時の動橋川の可能性があります。



調査区遠景（北から）



河川跡（弥生時代後期）

くわ
鋤（弥生時代後期）ふなざい てんよう いど
舟材を転用した井戸あみわく
網杵（弥生時代後期）

H28 発掘調査

しょう にしじま いせき 庄・西島遺跡、 つばくらはいじ かがし 津波倉廃寺 [加賀市]

庄・西島遺跡は江沼盆地のほぼ中央部に位置する集落遺跡です。遺跡の範囲は広く、西島・七日市・庄・津波倉・桑原・二子塚の6つの町域に及び、古代寺院“津波倉廃寺”の推定範囲が含まれています。調査は国道8号の4車線化工事に伴うもので、平成27年度から行っています。

第2次調査となる平成28年度調査では、弥生時代から中世にかけての集落跡を確認できました。特に、遺跡南西端の調査区では、計13棟の掘立柱建物が計画的に配置されている様子がありました。建物は8世紀後半から9世紀（奈良時代後半～平安時代初め）のものと考えられ、平成27年度調査で確認された9世紀後半の建物群とは時期に違いがあることから、集落内における建物群の変遷のあり方をうかがい知ることができました。

調査区東側では、弥生時代後期から終末期の建物群がみつかりました。3棟の竪穴建物（地面を掘りくぼめた建物）と5棟の平地建物（地面に掘り込みがなく周囲に溝をもつ建物）が微高地上に営まれ、建て替えが繰り返し行われていたことを確認できました。

出土品は土師器や須恵器、弥生土器などが中心でした。そのほかの特徴的な出土品として、須恵器の小壺や12世紀末から13世紀初頭の土師器とともに出土した銅鏡が1面、奈良時代頃の瓦片がみつかりました。

庄・西島遺跡、津波倉廃寺の発掘調査はまだ続きます。今後の調査では、これまでに確認できた集落跡のさらなる広がりや、古代寺院に関連する遺構・遺物の発見が期待されます。



調査区遠景（西から）



密集する掘立柱建物（奈良時代後半～平安時代初め）



方形の竪穴建物（弥生時代後期～終末期）



銅鏡（左）と須恵器小壺（右）

H28 古代体験

春休み『いろ・色・まが玉づくり』

平成29年3月18日（土）から29日（水）にかけて「いろ・色・まが玉づくり」を行いました。春休み期間中の小学生を中心に多くの体験者が訪れ、体験工房は連日のにぎわいとなりました。

このまが玉づくりでは、黒・ピンク・緑・白の4色の石材の中から1つを選び、荒砥石から仕上げ砥石までを時々で使いわけながら削り・磨き上げていく工程が魅力となっています。

また、使う石材の大きさは4～6cmと、通常体験できる“まが玉づくり”の石材よりも大きく、石の硬さもいろいろあるため、体験者のみなさんは石と真剣に向き合い、時間をかけてていねいにつくりあげていました。



大きくてきれいな、まが玉ができました

H28 情報発信

発掘報告会『いしかわを掘る』

平成29年3月5日（日）、県立美術館ホールで毎年恒例の発掘報告会が開催され、約200名の方々が熱心に耳を傾けました。県内各地の発掘調査事例の中から6か所の遺跡を取り上げ、調査担当者が最新の調査成果を時間が超過気味になるほど熱心に紹介すると、会場を埋めた参加者からは活発な質問が飛び出していました。

報告は、弥生時代中期の大規模環濠集落である小松市八日市地方遺跡からはじまりました。大量の木製農耕具や食生活の様子を示す貝やトチなど有機質遺物の保存状態の良さが際立っていました。加賀市弓波遺跡からは、弥生時代から室町時代にかけての多様な建物跡や墳墓などが報告されました。白山市小川新遺跡の315基にもおよぶ石組井戸の密集状況が画面に映し出されると、参加者の驚く様子が伝わり、井戸についての質問も出ていました。能登町松波城跡・旧松波城庭園では、多量の石（円礫）が並ぶ枯山水遺構を保存しながら展示していくための調査が報告され、今後現地でみることのできる日が楽しみです。史跡整備のための調査が実施された九谷



話にききいる聴衆のみなさん



金沢城跡の報告のようす

磁器窯跡と金沢城跡（鼠多門・鼠多門橋）は、今後整備公開がさらに進められ、身近に歴史を学べる場所として、また石川の観光資源としても期待されている様子が伝わりました。

H29 古代体験

ゴールデンウィーク『^{てがた}手形・^{あしがた}足形づくり』

平成 29 年 4 月 28 日（金）から 5 月 7 日（日）にかけて「手形・足形づくり」を開催しました。未就学児が対象で、子供の成長記録にと毎年参加されるご家族のほか、初めて体験される方も多く“こどもの日”を中心に約 1,000 枚の子供たちの手形・足形ができあがりました。

体験方法は、まず円く整えた粘土板をつくり、手や足を直接のせて形をつけます。そのあと、紐ひもとおすための穴をあけ、縄なわや貝などを使って文様をつけて完成です。モデルは、北海道や東北地方で出土する縄文時代の「手形・足形付土版どばん」です。青森県のおおしだいら遺跡で出土した土版は、全長 7 cm の手形と足形で、乳児のものと報告されています。

作品は、当センターの電気釜で橙色に焼き上げ、6 月 3 日（土）から展示・引渡しを行いました。



足形に挑戦 思わず力が入ります



ぶじ、引渡しできました



手形・足形の展示状況（1008 枚が並んだ!!）

H29 古代体験

古代体験学習講座 『縄文土器づくり』

平成 29 年 5 月 21 日(日)に「縄文土器づくり」を行いました。

この学習講座では、まず縄文土器の歴史にふれ、つづいて深鉢ふかばちや浅鉢あさばちなど、多様な形とその用途、土器の文様の特徴についてくわしく解説した後、加賀、能登の県内各地から出土した、縄文時代中期の深鉢 4 点をモデルに土器づくりを行いました。

手順としては、まず麻布の上で円盤状の底部をつくり、次に太さ 1 cm ほどの粘土ひもをつくり、それを底部から輪積みわづみして少しずつ成形していきました。

午後は、午前中につくりあげた深鉢形の土器に、木のヘラや半裁竹管はんさいちっかん（竹管を半分にカットした施文具せもんぐ）などを使って文様をつけました。参加者は土器の表面に、縄文時代にみられた手法なわ（縄をころがす、半裁竹管で線ようみやくを引く、ヘラを押す）を用いて、直線や曲線、葉脈状文などを入れながら、いろいろな施文方法を体験しました。

時間をかけてじっくりと仕上げた作品に、参加者の方々は一様に達成感を感じたようでした。

なお、作品は十分に乾燥させた後、当センター体験ひろばで 6 月 13 日(火)に野焼きのやきしました。



作品は十分乾燥させ、野焼きしました



粘土ひもを下から順に輪積みしていきます



こうえんぶ
口縁部まで仕上げて縄文土器の形になりました



成形した後にていねいに文様をつけていきます



まいぶ人日誌

平成29年
4~6月

4月

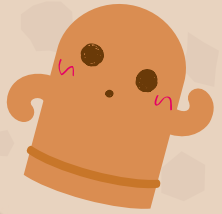


LOOK

火はおきるかな？



NICE!



初夏のひろば
草が生い茂る

5月

ここで土器の破片を
整理するよ

火おこし成功！
暖かいね



まが玉を作るんだ

WELCOME



緑が濃くなってきたなあ

縄文土器、乾燥中



ホール展の準備
遺物がいっぱい

「はにわの日」に向けて
マスコット制作中

COME ON!



HAPPY



サトイモ植えるよ
よいしょ！



草刈りをしてスッキリ！



赤米、元気に
育ってね

「はにわづくり」用の
粘土をこねるんだ

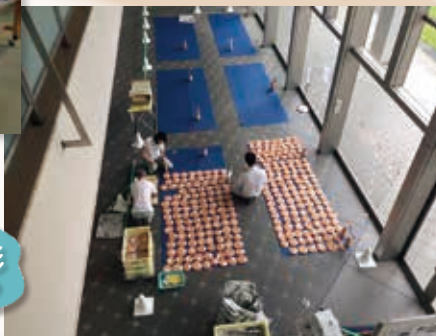
6月



「手形・足形」が焼けたよ
誰のかがタグを付けていこう



たくさんの手形
全部並ぶかな？



心臓マッサージを
学ぼう

